

---

# 27歳のメモ

久能宗治

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

27歳のメモ

### 【Nコード】

N1244BA

### 【作者名】

久能宗治

### 【あらすじ】

現時点での考えをまとめたもの。

ジョン・キューザック主演の『アドルフの画商』という映画の中で、当時まだ無名の一将校でしかなかった若き日のアドルフ・ヒトラーが第一次大戦で全てを失った後に訪れた紳士服店で、月給以上を請求されるスーツを見て嘆くシーンがあった。

戦争による物資不足で物価が高騰している、ただそれだけのことなら「仕方がない」ことなので、わざわざ映画の中に意味ありげに挿入する必要の無いシーンである。

しかし僕にはどうもそうは見えなかった。

当時金融界を支配していたユダヤ人に対する憎悪が増える要因の1つが、そういった日常の何気ない1シーンに現れていたのではないかと、そのように見えた。

実際、資本主義、純粋な資本主義では、資本を増やすことは善とされる。

ドラマや映画では金融で財を増やすという（主に悪役）のが強調されやすいが、金融だけでのし上がるのはほんのごく一部だけである。大多数の金持ちと言うものは、なんらかの工場なり、土地なり、建物なりを保有しており、金と人脈、そしてその不動産を駆使して金を増やしていくものだ。

戦争によって産業が壊滅した暁には、資産力のある人間はその資産を用いて工場を再建し、若者に技術を教え、働く機会を提供しなければならぬ。しかし第一次世界大戦後のドイツではそれが上手くなされなかったのではないかと、映画のフィルムからはそんな雰囲気を読み取れた。莫大な賠償金のせいで、そこまで手が回らなかったのだと思われる。

当時のドイツ金融界の人間が、壊滅した工場を必要最低限しか復旧させずにわざと物価を吊り上げて富を増やそうとしていたとは考えにくい。もしそうなら悪夢だっただろう。

工場は、ただあればいいというものではない。

少なすぎてもヒトラーのスイツのように高騰して惨めな目にあう国民が増えるが、多すぎれば企業そのものが共倒れしてしまう。靴下を作る工場が何万軒あっても仕方がない。その調整が難しい。

中途半端に政治介入すれば、悪賢い民間人に手玉に取られて事態の悪化を招きかねない。

バランスーとしての確な判断を下せるのはその分野に精通した人物だけだが、そいつが私利私欲に走る人間かどうかを見極めるのはとても困難だ。十中八九は『スカ』に該当する。

そういった人間社会の現実を考慮したうえで、アダム・スミスは『完全に自由にやらせるべき』であり、それが社会を適切なバランスに導く最適解だと説いている。

確かに素晴らしい考察ではある。

現在の日本はそこまで深刻な状況ではないが、若者の技術離れが進み、公務員志望者が増え、国内工場は海外への流出を継続させている。

自由にさせている結果としてこうなっているのだろうが、その結果として良い面と悪い面が出てきている。

良い面としては物の価格が安くなって、ある一定の生活を送るのに不自由が無くなりつつある。

悪い面としてはゴミの増加と、仕事が無くなり出すことによる低賃金と将来の不安が挙げられる。

現在の日本において問題なのは、『自由』と『制度』の関係が不透明で部分的に偏りがあるところだろう。

例えば年金は現世代が前世代を支えるという形を取っているが、現在、各製造分野ではなるべく新卒を採用せずに定年を過ぎた老人を嘱託として雇う傾向にある。さらに海外へ移動させて、そこで現地の若者に技術を教え、もちろん給料はその海外の人間に支払う傾向にある。

もうこの時点で年金制度が破綻していることが分かるだろう。

金を稼ぐ手段を海外の若者に与えるならば、年金を支払うのも海外の若者ということになりそうなものだが、海外に出すのは自由でも年金は『強制的に』徴収されることになっている。是正させるためには年金支給額の減額しかないが、『信用』で成り立っている年金制度を一度崩すことは、かなりの混乱がついて回ることが予想されるだろう。

優秀な人間が『自由』に職業を選択した結果、清潔で社会的地位があつて安泰な公務員を目指すのは無理も無いことである。

しかしその公務員の給料はどこから来るのかというと、それはそれ以外の国民が稼いだ金の一部を税金として徴収することで賄われている。

しかし優秀な人間がこぞつて公務員になって、現場をそれ以下の人々に任せていけば、自然と国内総生産も下落していくことが予測されるので、それに従つて公務員の削減と給与削除は当たり前前足し算引き算レベルの政治判断であると思われるが、実際、それを正確に調べつくして実行に移そうとしている様子は無く、なんとなく最低限度の減額と削減でお茶を濁しているようにしか見えない。

技術者が自分の技術をどこの誰に教えるのも彼の『自由』である。しかし、最近の技術者や工場主は技術を磨くことで他者よりも抜きん出て金を稼ぐという風潮は昔に比べて薄く、技術をなるべく誰にも教えずに、独占することによつてその価値を吊り上げることに熱心である様子が伺える。もちろんそれも自由なのだが、自分の工場

の従業員が辞めようとする、その人物が優秀であれば、あらゆる倫理意識やら道徳観念やら恩義（時には恐怖）などを持ち出して束縛する傾向にある。

それでいて完全な悪には徹しきれない。

そもそも日本社会はそれほどまでにドライな社会ではない。

このままでは中国に全て奪われるのではないかと思えてならない。海外勢が急成長していく中、日本の若者は高い納税義務を負わされている現状を把握したうえで行動であるとは到底思えない。その場ののぎか、あるいは何も考えていないように思えてならない。

少なくとも、日本の大人は将来、日本の若者に支えられるのだから、その元手である技術を教えるのは老人たちの義務であると思われるが、それどころか逆にバッシングするケースのほうが多いのでは無いか。自分の若かりし頃のことを棚に上げて。

技術は教わるものではない、盗むものだとよく聞くセリフだが、そもそもそのような盗み取る機会自体が相当減少傾向にあると思われる。

第一、子供の頃から学校の勉強ばかりを真面目にしてきた子供は、よほどの事が無い限り、日本国における技術の重要性について理解するどころか、考えることすらほとんど無いだろう。

少なくとも僕レベルの人間では、20歳未満でそのことに気付くのは不可能だと思われる。

はっきり言うが、技術者は少し余り気味なくらいが丁度良いのである。

欧州のように技術を国有財産化して選ばれた人間だけの伝家の宝刀とすることは良くないだろう。

なぜなら技術者は公務員とは違って、一発逆転の可能性を秘めた職業だから。

平均賃金で公務員より安くても、何か発明して大富豪になる可能性

を秘めているのが技術者であるからだ。

資本家が技術者を支配し、必要以上に作業を細分化させて各々の能力を低下させることは、生産性の向上という観点から見てある部分不可欠なことであるが、生産現場から優秀な人間を遠ざける要因になるばかりか、技術者から『777』を奪い去ることに直結する。まさに自由が生んだ不自由とはこのことであろう。

そしてその先にあるのが何なのかは、先の大戦を見れば一目瞭然である。

しかし資本主義ほど優れた社会も存在しないだろうとも言える。特に日本のような災害大国においては、有事の際にあらゆる物資が円滑に移動していく経済システムは無くしてはならないものである。東日本大震災を見てそのことをつくづく思い知った。

世界各国からの支援にも驚いたが、これに対して『日本は普段から世界に援助金を出しているからプラスマイナスゼロだ』などと言う人が居るが、これは大きな間違いである。

なぜなら、援助をせずに溜め込んでいたお金なら、それは『誰かが管理するお金』であり、つまるところどこかの資産家や有力政治家、官僚などの気分1つ、判断1つで別なものに使われていたかも知れないからだ。

今後の社会においては、あのレベルの災害を考慮に入れて、『国家保険』などという日本そのものを保障する制度も作るべきかもしれないが。

人口の少ない、断崖絶壁が多い東北地方だったからあの程度で済んだ。もしあれが東京か大阪で起きていたら、死者は100万以上になり、経済損失は累計で1000倍以上になっていた可能性が高い。

資本主義であることは必要である。

しかしそれだけでは不十分である。

技術主義でもなければならぬ。

特に男性の職業においてそうでなければならぬ。

男性は職場では女性以上にリスクを背負い、きつい仕事をしなければならぬ。

なぜなら女性は命がけで子共を産んで育てるので、男性はその負荷がない分、職場で能力を発揮しなければならないからだ。

生産性向上のための作業の細分化は、これに対しても相反するのである。

分けなければならぬ。

区別しなければならぬ。

それは決して男女差別ではない。

全てを考慮に入れると、やはりGHQ主導で成立した日本の高い税率は、素晴らしいの一言に尽きると思う。

しかしGHQにその政治判断をさせたのは、当時、太平洋各地で命を捨てて戦った名も無き日本の若者たちが原因だったのでないだろうか。

GHQ元帥マッカーサーは列記とした軍人であり、獅子奮迅の戦いを見せる（自分と同じ）軍人を尻目に、国内で又クヌクと肥え太る財閥などが、核を落とされた日本人に対する同情と相俟って許せなく映ったのだと思われる。

神風特攻隊やヒメユリ部隊の血の滲む努力と苦悩が、巡り巡って戦後日本社会の復興に繋がったと考えると皮肉ではあるが、命を捨てての体当たり作戦は、いくらなんでも酷すぎる。

高度な教育システムと未熟な社会制度が生んだ悲劇である。同じ過ちを繰り返さないためには、どうすればいいのだろうか。

全ての若者は自分の力を最大限発揮したいと望んでいる。

しかしほとんどの若者はその方法を知らない。



それは大人も知らないことである。  
インターネットが生み出され、グローバル化が進むことで全く様変わりしてしまったこの世の中においては。

(後書き)

笑ってやってください

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1244ba/>

---

27歳のメモ

2012年1月3日00時47分発行